

〔古史徴一〕夏今世に、其祖の詳ならぬを合さむとして、系圖家といふ徒に誂へて、強て祖々の名を作り設け、或は他氏の祖を取り入れて、我が祖となす徒も多在、○中其は眞の道知らず、幽冥の畏き理を知らざる故とは云ながら、甚もはかなくおぞましき事なりけり、

〔文會雜記四〕國初ハ、文盲沙汰ノ限ナル事ニテ、庄内ノ大夫水野明卿ノ語リシハ、彼家ノ先祖、系圖ヲ書出シノ時、一家中ニソレヲ書ク人ナクテ、系圖作リニ托シテ書上クレタリ、今見レバ、違ヒモアレ共、ハヤ官ヘ出タルモノ故、取返シ書改ガタシト語レリ、

〔續武家閑談十九〕本朝姓氏辨

松平康懿識

近世系圖者ト云者アリテ、多ク諸家ノ系圖ヲ妄作シテ、眞ヲ亂ルモノアリ、譬バ紀州ニ保田庄司アリ、何人ノ妄作セルニヤ、新羅三郎義光ノ末、安田三郎義定ノ後胤トス、紀州ノ保田關東ノ安田、其出自違ヒアルコトヲ不知、或ハ江州ノ人ヲバ、皆佐々木一族トシ、濃州ノ人ヲ土岐ノ族トシ、尾州ノ人ヲ斯波武衛ノ後裔ト妄作ス、想フニ江州ニ藤橋伴菅原、中原平有源氏モ宇多帝ノ後胤ノミナラズ、清和嵯峨ノ御末モ有然、曷ゾ佐々木家ニカギランヤ、美濃尾張モ皆同ジ、其妄作可惡ノ甚キモノ也、近來或人、安保氏ノ系圖ヲ作ル、平城帝ノ皇子阿保親王ノ後裔ト僞作ス、安保ハ武藏ノ七黨、丹ノ庶流ナルヲ不知ニヤ、歷名補任ニ、諏訪信濃守神忠卿、古押譜ニ、源忠卿トアヤマル類モ不少、其餘ノ諸家ノ系傳記錄ニ至テ、僞妄ノ說ヲナシテ人ヲ欺ク者多シ、實ニ天下ノ大賊也、今世ノ人、正史實錄ノ正趣ヲ不知、其妄說ヲ信ズルモノ、不明ノ至也、井澤長秀ガ曰、近世ノ系圖ハ、子ヨリ親ヲ生ズルトイヘルゾ格言ナルベシ、松井康懿ハ、傳次郎ト稱ス、父三郎左衛門康共以來、舊記ヲ好シテ、氏譜ニ委シキ人ナリ、

〔兵家茶話九〕伊賀人柘植甚八彌平兵衛宗清が末也、○中宗清、○中柘植を爲氏、柘植の號是よりはじまる、宗清子孫繁昌、服部氏も宗清の末となん、家傳

按るに、○中伊賀服部氏は秦姓にて、融通王の末也、○中近世平氏とし、宗清が末とする事、中葉